

県内医師対象アンケートの実施結果

「薬剤耐性に関するアンケート調査」

○概要

- 調査機関：茨城県衛生研究所、茨城県薬剤耐性対策推進会議
- 助 言：筑波メディカルセンター病院感染症内科 喜安嘉彦先生
- 調査時期：令和3年11月8日（月）～12月12日（日） 35日間
- 調査方法：インターネット又はファックスによる回答※
- 回収数：4 1 6名

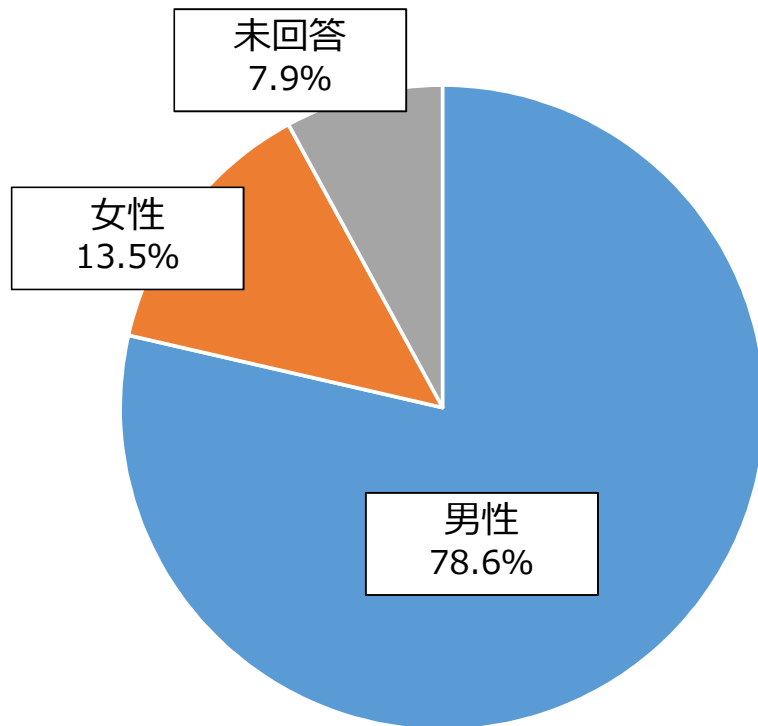
●参考（回収内訳）	回収数
インターネット	7 3
ファックス	3 4 3

※(一社)茨城県保険医協会に御協力いただき、医科会員（R3.10.1現在1,052名）ほか
県内医師に郵送及びファックス等で依頼した。

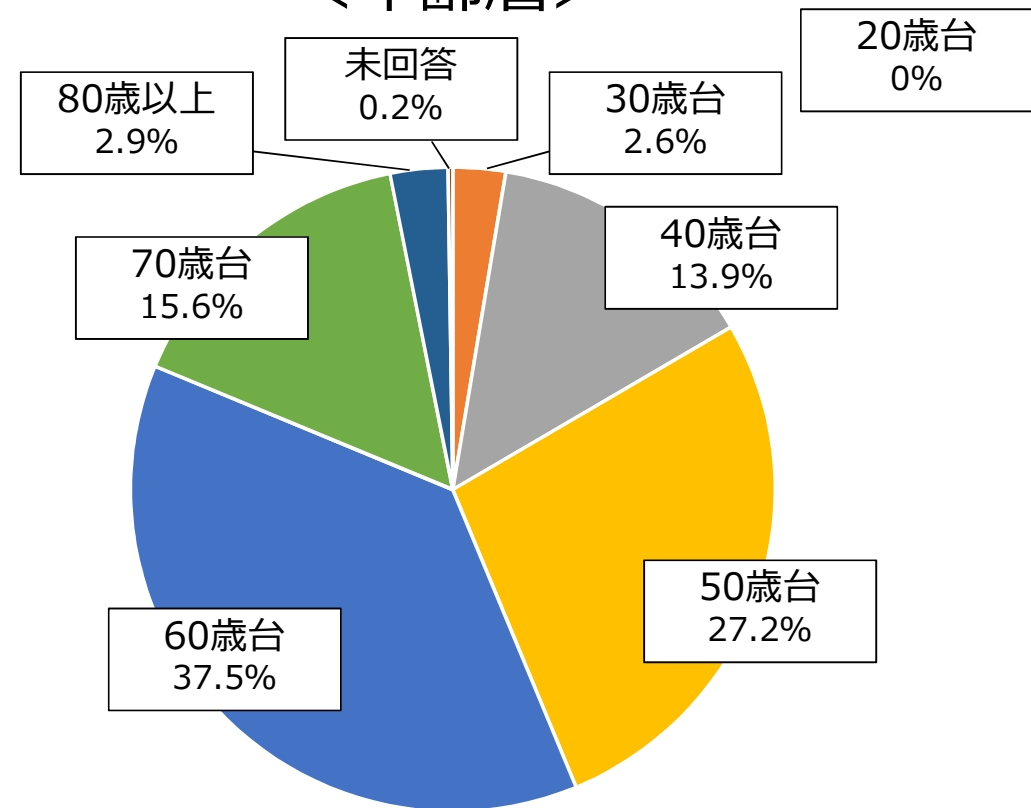
回答者の属性①（性別・年齢層）

(n = 416)

<性別>



<年齢層>

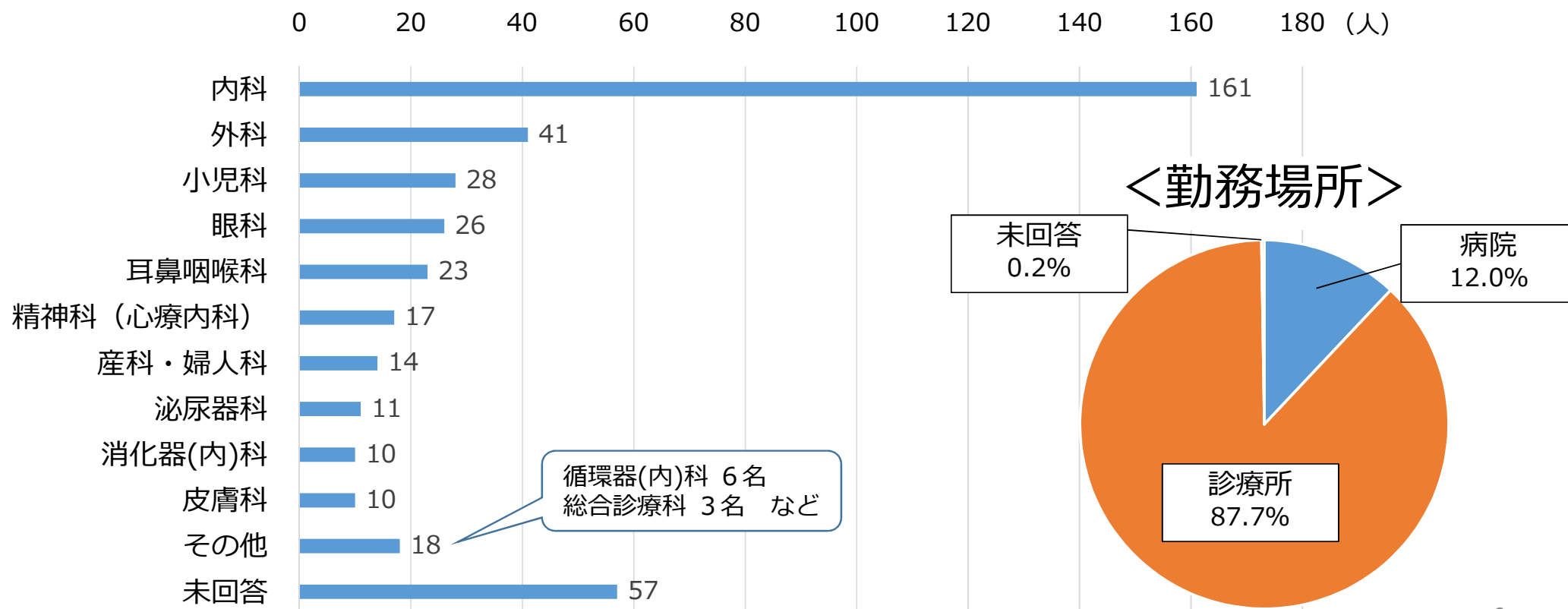


注：本スライド以降、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある

回答者の属性②（勤務場所・診療科）

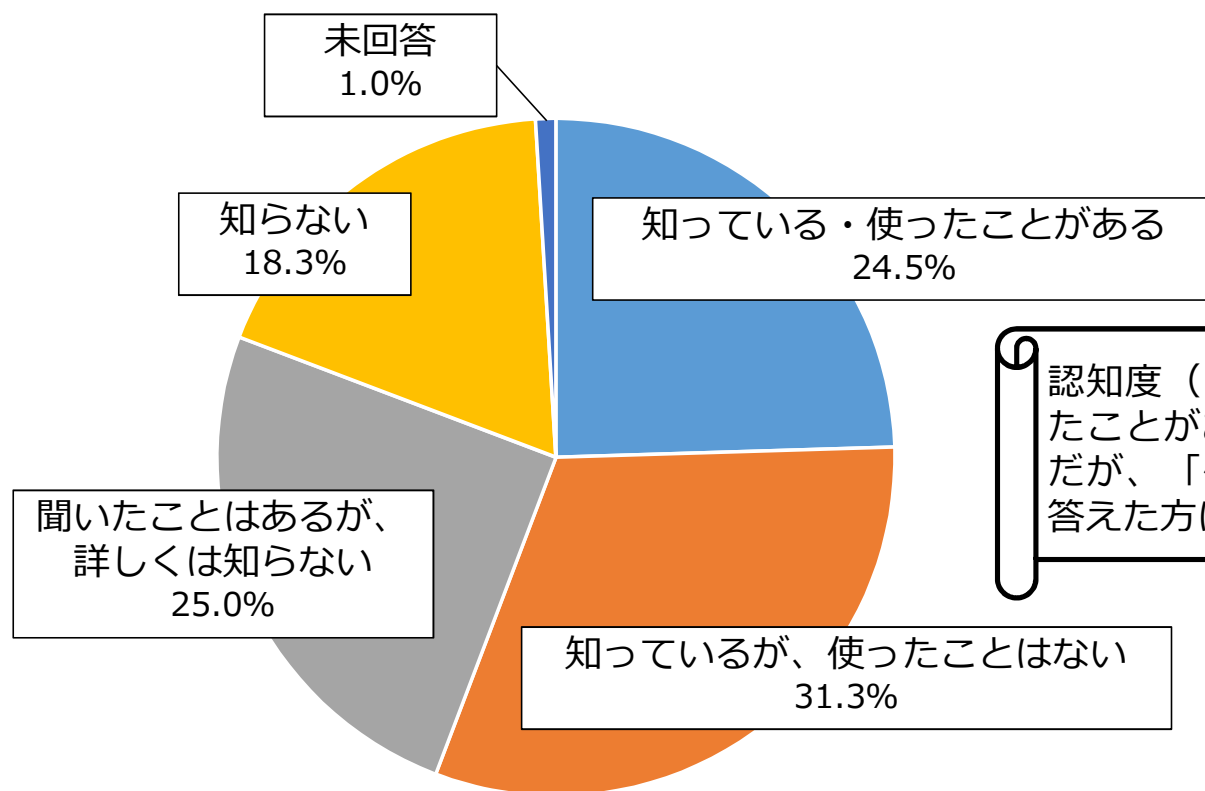
(n = 416)

＜主に担当している診療科＞ ※複数記入された場合、最初の科で分類した



【問1】あなたは「抗微生物薬適正使用の手引き（第二版）」 (厚生労働省が令和元年12月発行) についてご存じですか

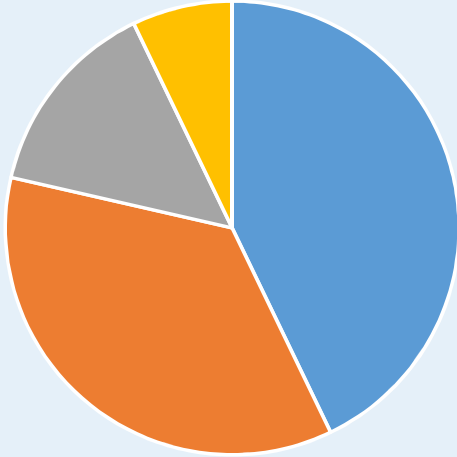
(n = 416)



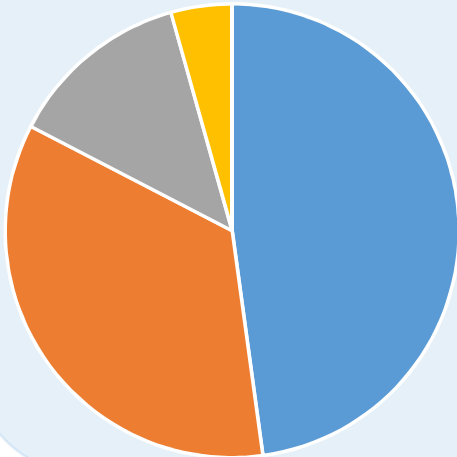
認知度（「知っている」「聞いたことがある」割合）は80.8%だが、「使ったことがある」と答えた方は24.5%であった。

認知度が高い？

【小児科】 (n = 28)



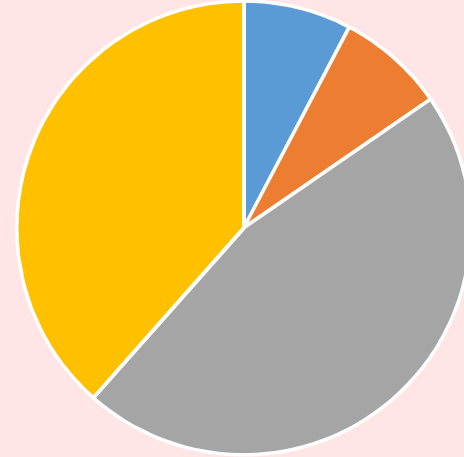
【耳鼻咽喉科】 (n = 23)



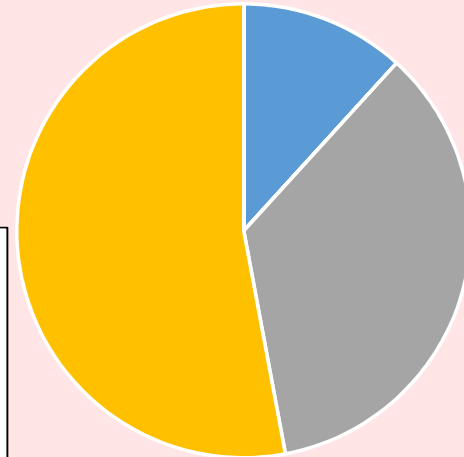
問1において、他と比較して異なる回答の傾向がみられた属性

- 知っている・使ったことがある
- 知っているが、使ったことはない
- 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- 知らない

【眼科】 (n = 26)



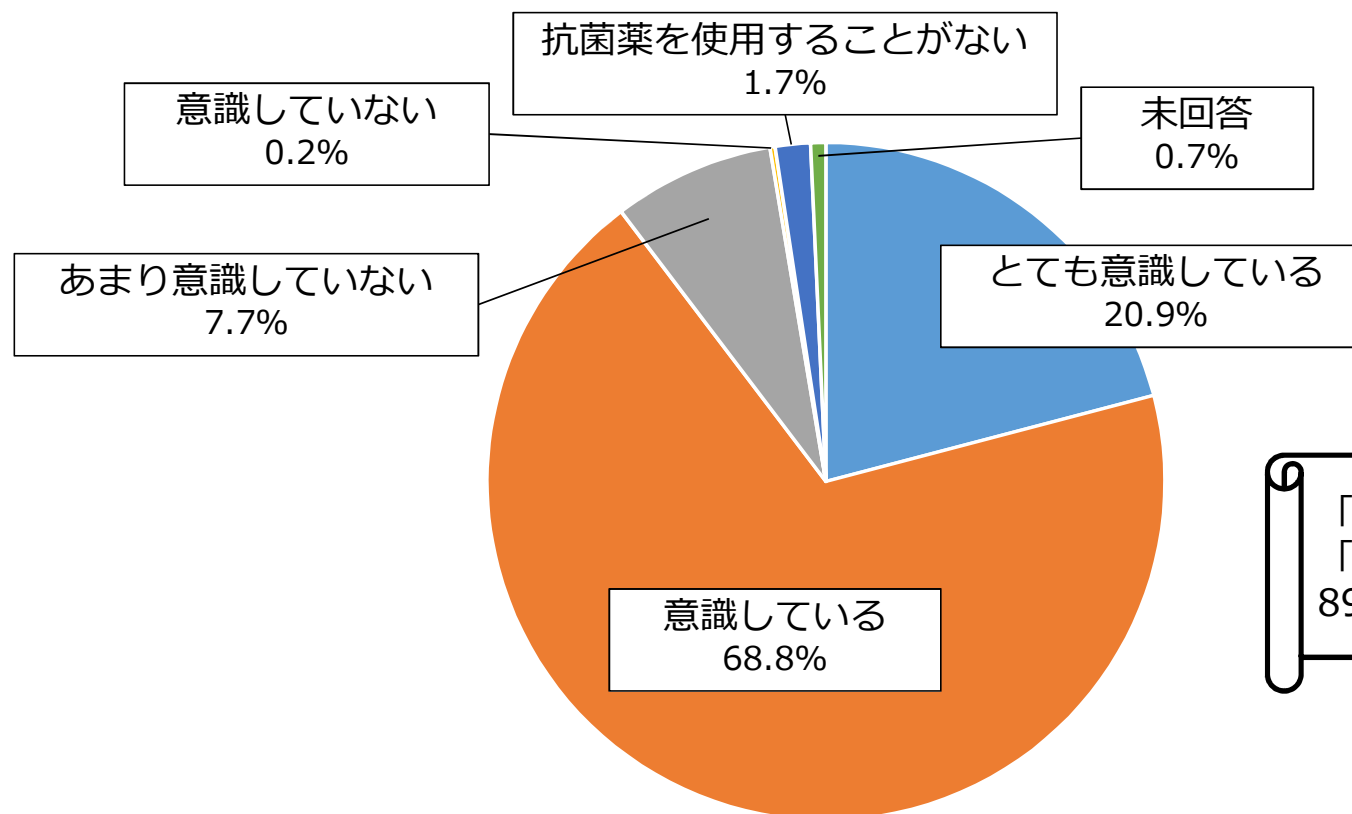
【精神科】 (n = 17)



認知度が低い？

【問2】あなたは抗菌薬を使用(処方)する時、薬剤耐性対策について意識していますか

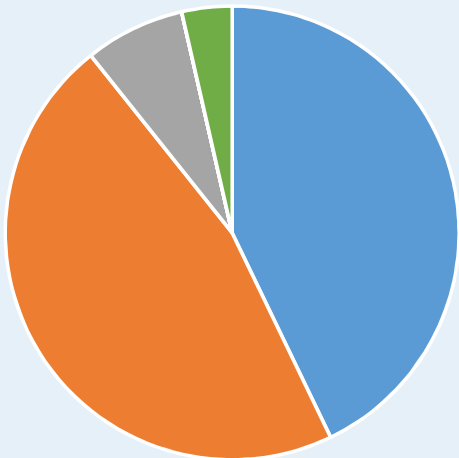
(n = 416)



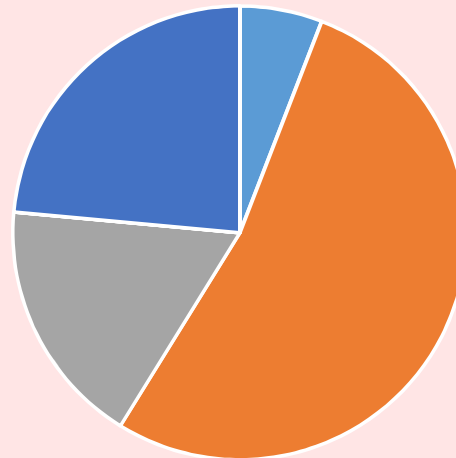
「とても意識している」又は「意識している」と答えた方は89.7%であった。

「とても意識している」割合が多い？

【小児科】 (n = 28)

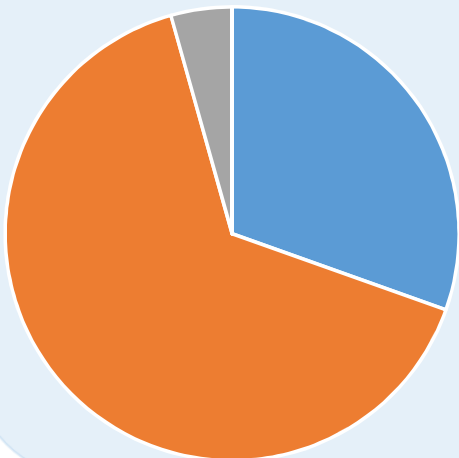


【精神科】 (n = 17)

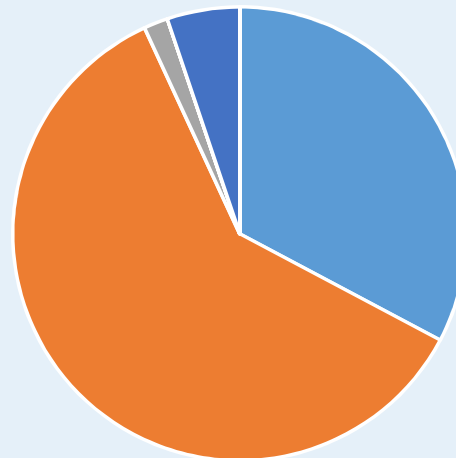


問2において、他と比較して異なる回答の傾向がみられた属性

【耳鼻咽喉科】 (n = 23)



【40歳台】 (n = 58)

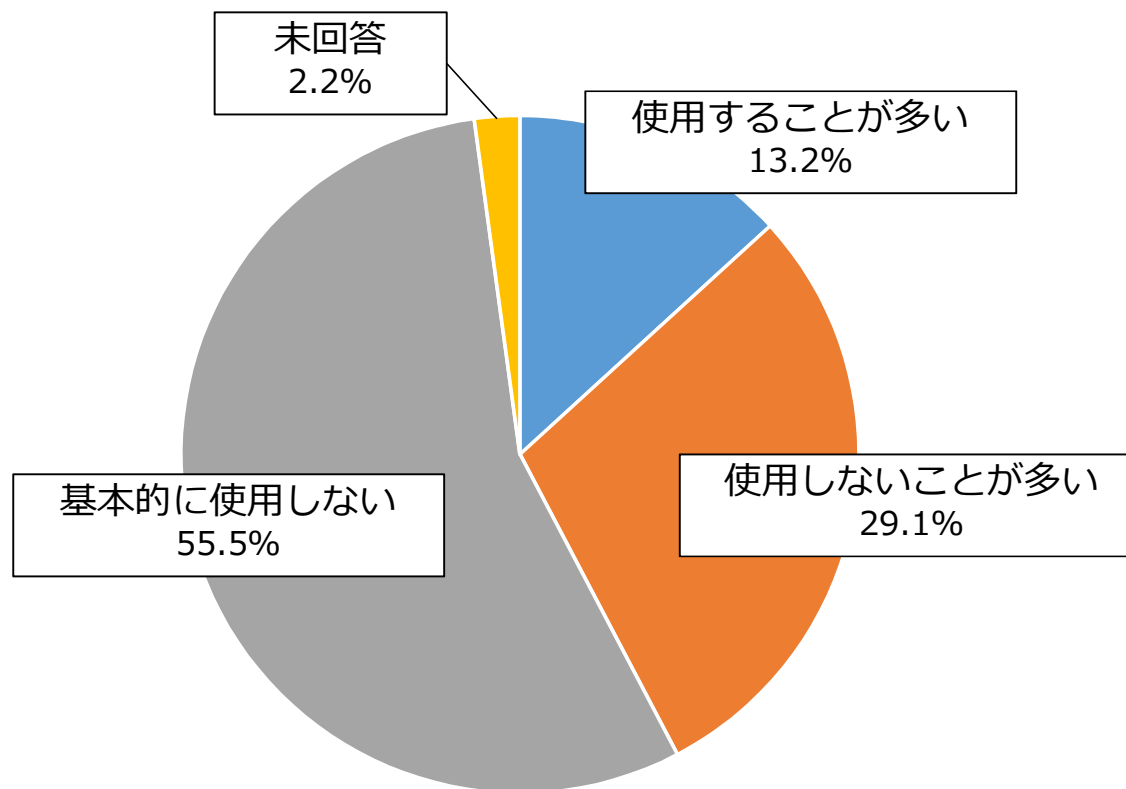


- とても意識している
- 意識している
- あまり意識していない
- 意識していない
- 抗菌薬を使用することがない
- 未回答

「(とても)意識している」割合が少ない？

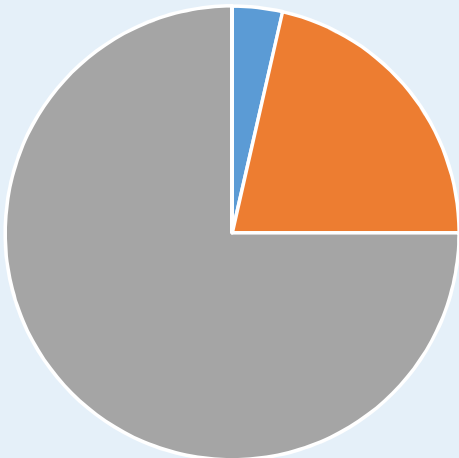
【問3】あなたは急性気道感染症（いわゆる風邪）の患者に対して抗菌薬を使用(処方)しますか

(n = 416)

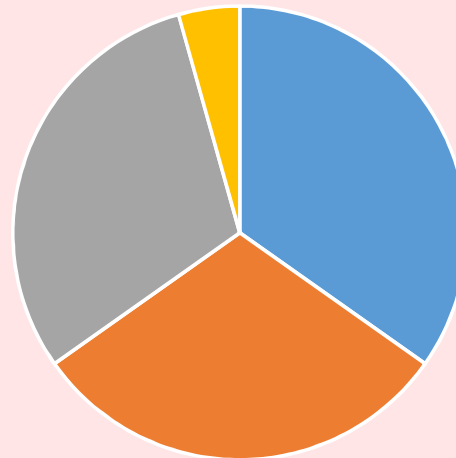


「使用しない」割合が多い？

【小児科】 (n = 28)



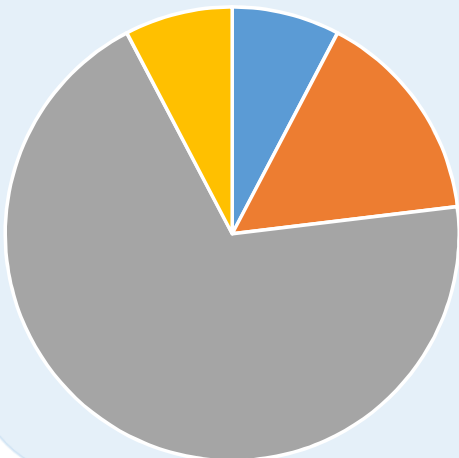
【耳鼻咽喉科】 (n = 23)



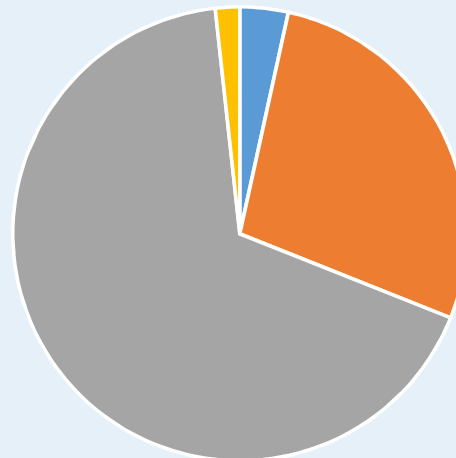
「使用する」割合が多い？

問3において、他と比較して異なる回答の傾向がみられた属性

【眼科】 (n = 26)

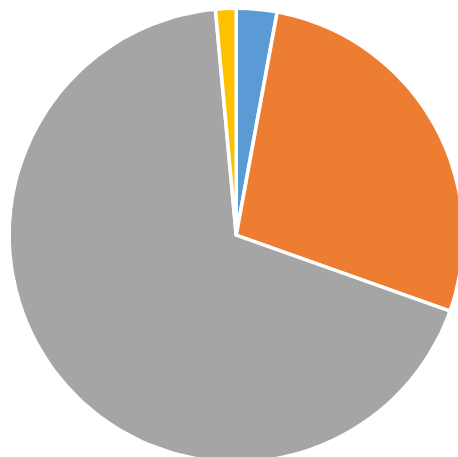


【40歳台】 (n = 58)



- 使用することが多い
- 使用しないことが多い
- 基本的に使用しない
- 未回答

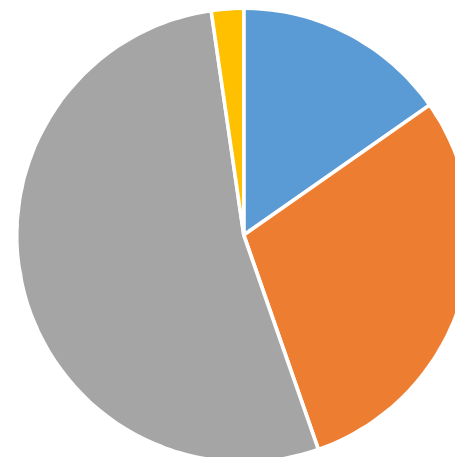
【50歳未満】 (n = 69)



問3について50歳前後
で比較

- 使用することが多い
- 使用しないことが多い
- 基本的に使用しない
- 未回答

【50歳以上】 (n = 347)



ここ20年、医学生・若手医師が感染症診療に関する教育に触れる機会が増えたため、50歳未満は「使用しない」割合が多い？

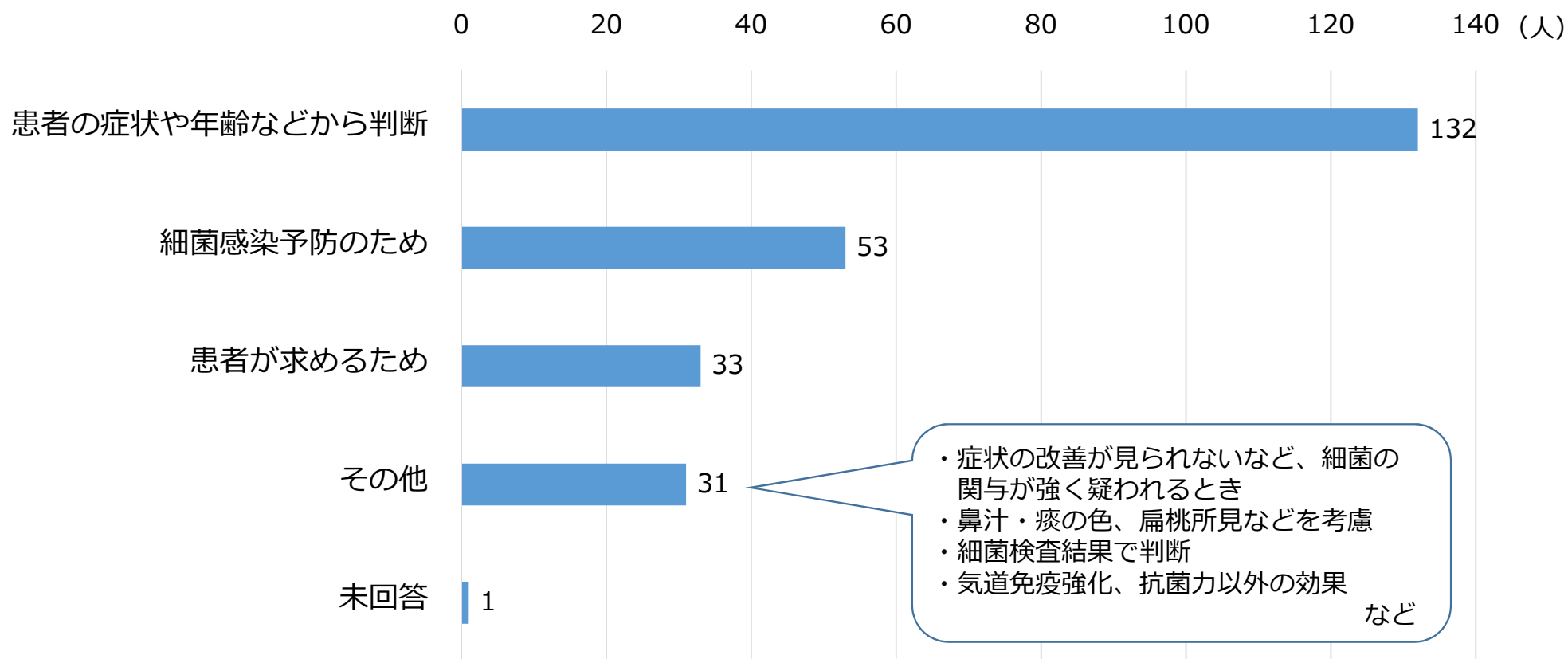
<背景>

- 青木眞先生（日本人で二人目の米国感染症専門医）が1992年に帰国し、聖路加国際病院等での勤務後、2000年から感染症コンサルタントとして医学生や若手医師の教育に尽力される。
- 2005年、日本感染症教育研究会（IDATEN）が設立される。

など

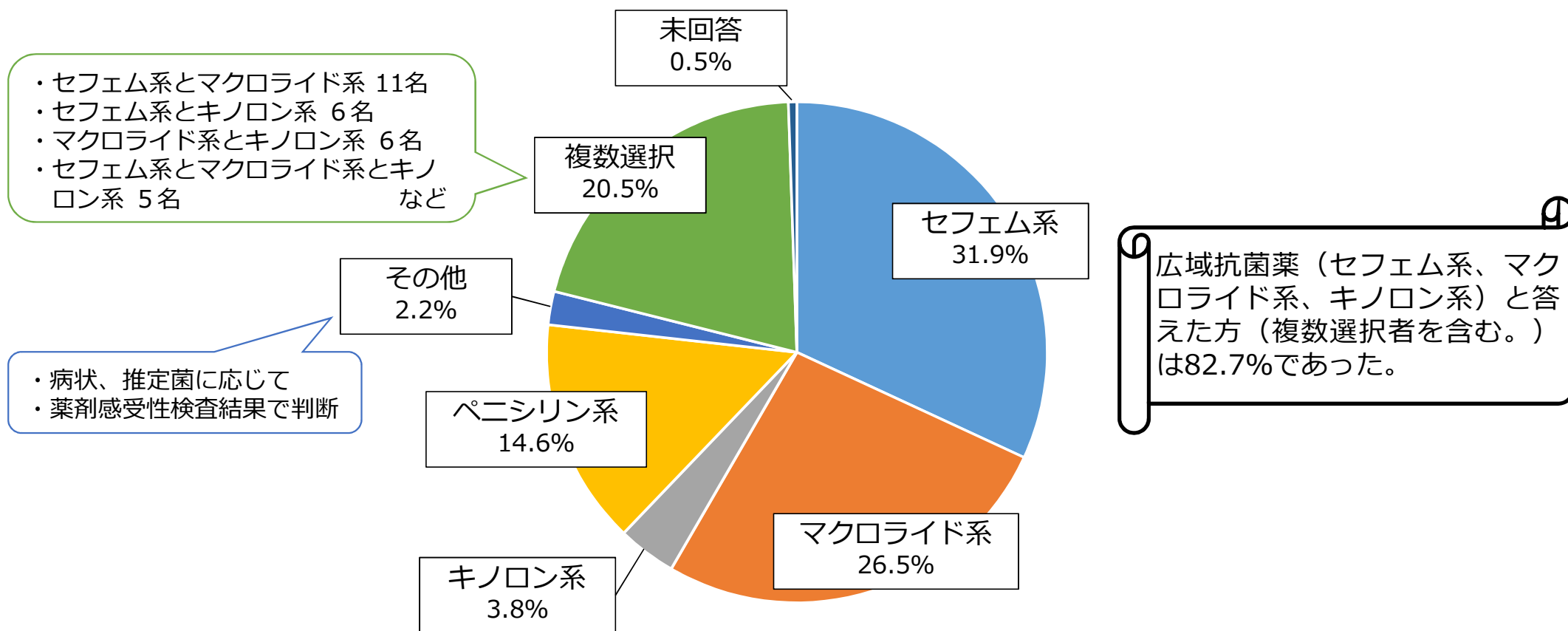
【問3-2】（問3で「使用することが多い」「使用しないことが多い」と回答された方へ）使用する場合、どのような理由で使用しますか（複数回答可）

(n = 185)



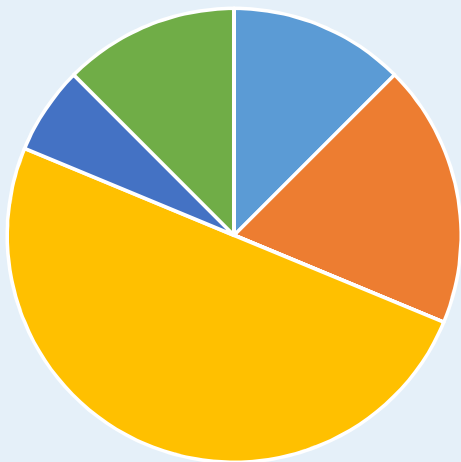
【問3-3】（問3で「使用することが多い」「使用しないことが多い」と回答された方へ）使用する場合、主にどの抗菌薬を使用しますか

(n = 185)

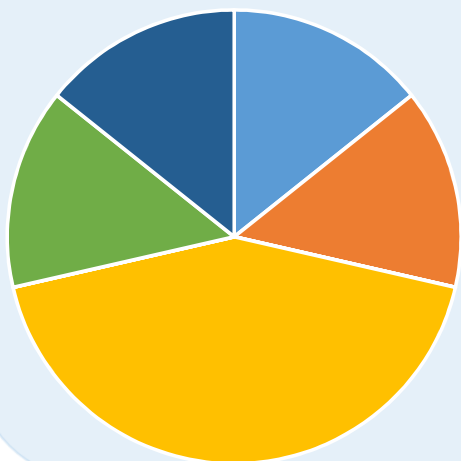


広域抗菌薬を選択する割合が少ない？

【耳鼻咽喉科】 (n = 16)



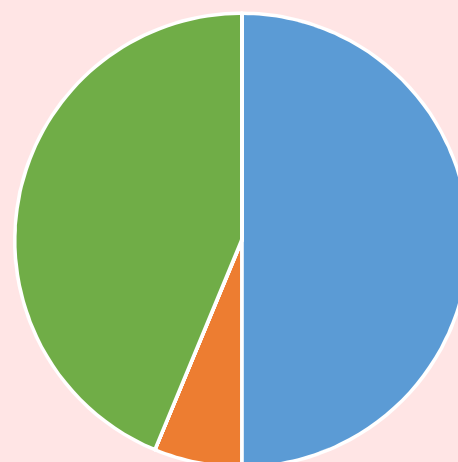
【小児科】 (n = 7)



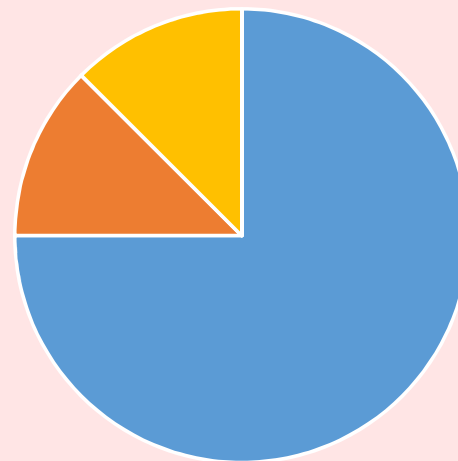
問3-3において、他と比較して異なる回答の傾向がみられた属性

- セフェム系
- マクロライド系
- キノロン系
- ペニシリン系
- その他
- 複数選択
- 未回答

【外科】 (n = 16)



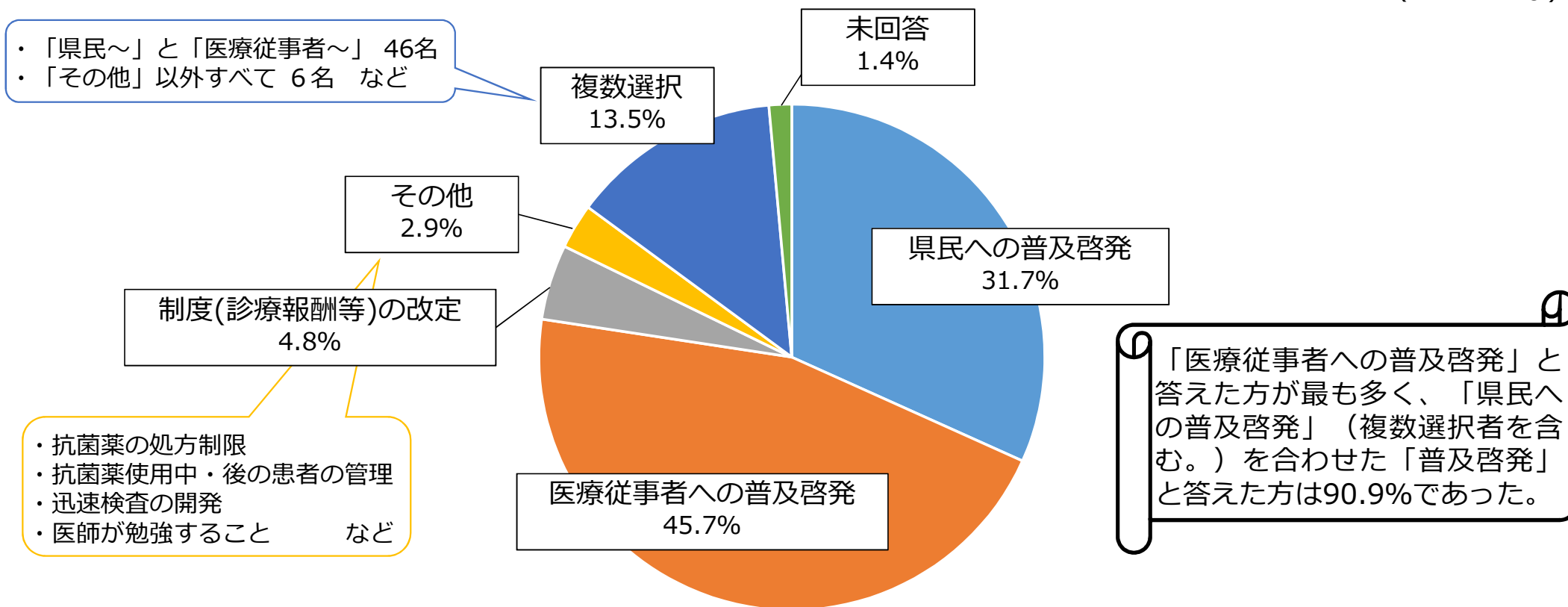
【精神科】 (n = 8)



「セフェム系」を選択する割合が多い？

【問4】あなたは抗菌薬の適正使用を推進するためには何が最も必要だと思いますか

(n = 416)



【問5】あなたが行政に求めること、ご意見等をご記入ください

(原文ママ)

- 大部分ほとんどの医師は抗菌薬長期処方による耐性は認識している。抗菌薬を希望する県民に対して風邪等はウイルス感染であることを知ってもらおう。
- ウイルスに抗生剤は効きません！！というお知らせやキャンペーンをお願いします。インフルエンザの券と一緒に入れておくなどいかがでしょうか。
- 抗菌薬を使用することのデメリットをもっと大々的に県民へ普及啓発すべき。薬剤耐性のみならず、アナフィラキシーショックの危険やTEN（中毒性表皮壊死症）など。
- 薬を多く処方する医療機関の評判が良い。
- 一部の開業医が抗菌剤を乱用している。個別指導すべきと思います。
- 勉強会、感染症専門医へのコンサルト
- 医学生に対する抗生物質、抗菌剤の使用の指導が必要
- 医療現場でコミュニケーションとれる人材の育成
- 検査センターや大病院の細菌検査のデータを把握して適切な対応することが必要
- どの菌がどの薬剤に耐性なのかをわかりやすく情報公開をすること

- 抗菌剤の適正使用を過度に考え、実行し、必要な際に使用せず重症化する症例を経験している。
- 畜産関係などでどれ位使用されているのか知りたい。
- 必要ないのに、抗菌薬の処方をしつこく求める受診者がいる。そこで、医療機関を受診した際に、「抗菌薬の処方箋を希望」と伝えた場合に、自己負担額が数百円高くなる制度があればよいと思います。
- 不適切治療に対しては診療報酬の減額をすること
- 細菌感染であるエビデンスがなければ使用できない、もしくは詳記が必要とするなど
- 特に第3世代セフェム系内服薬の使用に関しては、監視する仕組みが必要と考えます。
- グラム染色を行い適切な抗菌薬選択を心がけている施設に補助金を行うなどすると、適正使用が進みます
- 抗生剤メーカーを規制したら良い。
- 薬剤の安定供給に尽力して頂きたい。

など（回答数：71件）

結果まとめ

- 「抗微生物薬適正使用の手引き」の認知度は高い（80.8%）が、実際に使ったことがある方は少なく（24.5%）、「知らない」と答えた方（18.3%）もいた。
- 多くの方（89.7%）が薬剤耐性対策を意識しており、半数以上の方（55.5%）が風邪の患者に対して抗菌薬は「基本的に使用しない」と答えた。一方で、使用する場合の選択薬として、広域抗菌薬と答えた方（82.7%）が多かった。
- 抗菌薬適正使用を推進するため必要なことは「医療従事者への普及啓発」と答えた方（45.7%）が最も多かった。
- 属性（診療科、年齢層）で異なる回答の傾向がみられた。

医療従事者及び県民への普及啓発を中心に、より効果的な取組みについて協議・検討し、関係機関と連携してAMR対策を実施したい